第１学年構成的グループエンカウンター実践事例　桜島町立桜峰小学校　教諭　緒方陽子		
目標	「ともだちにやさしくしよう」という学級目標を達成するために，クラスの友達全員で活動する時間を設定して，友達のことを知ったり，協力したりすることを体験することによって，温かい人間関係をつくる。	
	主な学習活動	○指導上の留意点（カウンセリングの視点）
４月	**名前コール**（学級活動） 児童一人一人が自己紹介をする。その後，その児童の名前を全員で大きな声で「○○さーん。」と呼ぶ。呼ばれた児童は「はーい。」と大きな声で返事をする。	○　恥ずかしがってなかなか自己紹介ができない児童には，教師が自己紹介のヒントを出して一緒に言うようにする。他の友達に，「耳を澄まして聞こう。」と約束をする。 （自己開示・受容・共感的態度） ○　名前を呼ぶ友達を見て心を込めて呼ぶようにさせる。（温かい人間関係）
５・６・７月	**じゃんけん列車**（音楽・学級活動） 自由に歩き，音楽が止まったところで出会った友達とじゃんけんをする。負けた児童が相手の肩に手を乗せ，後ろにつながる。つながった集団同士でじゃんけんを続け，最後は一つの円になり，肩たたきをする。	○　勝手に一人で動いている児童には，ルールを守ってじゃんけんをするように声をかけ，輪に加わるように促す。（ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ） ○　握手をしてからじゃんけんするようにする。（受容） ○　じゃんけんのかけ声は，全員でかけるようにする。（一体感の高揚）
７・９月	**なんでもバスケット**（体育・学級活動） フルーツバスケットの要領で，鬼になった児童が言った言葉に当てはまる児童が席を移動する。例えば，男の子，女の子，好きな食べ物，好きなスポーツ，好きなタレント等。	○　何バスケットにするのか思いつかない児童にはヒントを出す。言うまでせかさないようにする，友達が言ったものと同じものでもいいなどのルールを作り，みんなで確認する。 （受容・共感的態度・温かい人間関係）
10・11月	**ありがとうカード**（常時・帰りの会） 隣の席の友達に優しくしてもらったことや，親切にしてもらったことをカードに書いて渡す。次に，４人グループになって行う。最後は，学級全員を対象にカードを書く。 まず，学級活動の時間に行った。その後，ありがとうカードとありがとうポストを教室に設置し，いつでもカードを書けるようにした。そして毎週金曜日の帰りの会の時に全部のカードを読んで手渡すことにしている。	○　何を書いていいかとまどっている児童には声かけをして，様々な場面を思い出せるようにする。（情緒的・情報的サポート） ○　うまく書けない児童を手伝う。 ○　ありがとうという感謝の気持ちで書くようにする。 ○　書いた児童，もらった児童ともに誉める。 （受容・自己肯定感の高揚） ○　カードを配った後に，「もらった時どんな気持ちがしたか。」を発表させ，また書きたい，またもらいたいという気持ちを高めさせる。（意欲の高揚）
実践の考察	１年生ということで，簡単なエクササイズを取り入れた。じゃんけん列車は，入学して早い時期から行った。初めは，負けても絶対後ろにつながるのはいやだと泣いてルールを守れない児童や，最後までじゃんけんをせずに逃げ回る児童もいた。教師が，ルールを守ってグループの輪に加わるように丁寧に説明したり，他の児童も，「ルールを守らないとおもしろくないから守って。」と言ったりしたことで，段々と全員でできるようになってきた。初めは，「勝たないと楽しくない。」と言っていた児童も，ルールを守ることや，活動自体を楽しむこと，チャンピオンになった児童に惜しみなく拍手を送ることができるようになった。 ありがとうカードを書いたときには，こんなにたくさん書くことがあると驚いていた。「ありがとう。」という言葉を小さなことに対しても言えるようになった。 構成的グループエンカウンターは，友達同士の関係づくりに役立つことを実感した。課題としては，①エクササイズをしている時だけでなく，いつでも児童相互が受容的・肯定的な関係をつくれるように支援すること，②教育課程の中で，「構成的グループエンカウンター」を行う時間の位置づけを明確にすること等である。	